

目次

- 【1】 事業報告
 - 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修を開催しました
 - 平成24年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業が無事終了しました
 - 防災体験バスツアー実施 (大阪府国際交流財団との共催事業)
 - 【2】 グローバル人材の育成特集
 - グローバル人材の育成
 - OFIXの国際理解教育外国人サポーター派遣事業
 - 【3】 JICAからのお知らせ
 - 国際協力ひろば ナマステ・インディア -インドで「つむぐ」国際協力-
 - 【4】 大阪府堺留学生会館オリオン寮生投稿コーナー
 - 日本人の若者の言葉使い
 - 【5】 外国人情報コーナー
 - 高度人材ポイント制度
 - 【6】 OFIX国際交流員のレポート
 - 文化と国籍を超えて
- 【折り込み記事】 日本も元気にする青年海外協力隊

【01】 事業報告

■ 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修を開催しました

河南町あるいは南河内地域に住んでいる外国人の方に対して、行政・学校などでのコミュニケーションの橋渡しをする、コミュニティ通訳者の養成を目的とする研修を、10月10・12日の二日間に渡り、河南町役場にて行いました。5言語、計15名のボランティア通訳者が参加され、コミュニティ通訳として活動するための心構えやケーススタディの他、通訳現場で必要とされる知識を深めるため、在留資格、行政窓口、教育などについて、それぞれの専門家にご講義をいただきました。また、プロの通訳者の方から通訳スキルのトレーニング方法についてご教授いただき、研修の最後には、学校での保護者面談や、進路相談を想定したロールプレイを行いました。

研修後のアンケートでは、「これを機会にもっと勉強したい」「知らないことを色々学べてよかった」との声が寄せられ、有意義な研修になりました。今後も多くの方に、コミュニティ通訳と知識や技術を提供していき、たくさんの方に活躍して頂くことで、外国人の暮らしやすい地域づくりを推進していきたいと思えます。

なお、11月からはとんだばやし国際交流協会にて、コミュニティ通訳ボランティア研修を行いますので、南河内地域での活動にご興味のある方は、是非ご参加ください。

■ 平成24年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業が無事終了しました

今年で20回目を迎える大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業も10月16日の研修生の帰国を持ち無事に終了することができました。

当事業は大阪府出身の世界的建築家安藤忠雄氏からの寄付金と、当事業の趣旨に賛同された企業の方の協賛金をもとにOFIXが毎年実施しており、建築、芸術を専門とする若者を本年度はアジアの8カ国から8名研修生とし9月19日より約一カ月間大阪に招聘いたしました。日本の建築、芸術を学ぶ機会をもち、日本文化への理解を深め、母国の建築、芸術の発展へ寄与することを目的としています。

10日間に及ぶ企業研修では、最新技術の紹介、建設現場視察、また熱心で勤勉な職場環境に大きな感銘を受け、大阪府庁および安藤忠雄建築研究所への表敬訪問では一生の思い出となる素晴らしい機会を得ました。

また企業研修の他にも、「持続可能な地球環境における建築の再建と保存」また「再生と防災」のプレゼンテーション、日本の大学生やホストファミリーとの交流、また京都や安藤氏設計建築物をまわり、一日として無駄のない充実した研修となりました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

研修の詳細については、次号でお伝えします。

■ 防災体験バスツアー実施 (大阪府国際交流財団との共催事業) 河内長野市国際交流協会事務局長 板東 可奈子

河内長野市国際交流協会では、地域住民とのコミュニティ作りも兼ねた外国人向け防災訓練をH22年度から始めており、この度、大阪府国際交流財団と共催で、外国人7カ国、18人、日本人11人の参加を得て、10月7日に阿倍野防災センターで、地震を知らない外国人に揺れなどを体験してもらう、防災体験バスツアーを実施しました。今後30年以内の発生が危惧されている南海地震の震度7を体感した時には、身体を支えるバーを握っていても恐怖を感じました。遊園地の乗り物のようにはしゃぐ外国人もいましたが、実際にこのような大地震が発生した場合、どう対処すべきかをシュミレーションするうちに真顔になっていく自分がいました。昼食は、避難場所での食事をイメージし、おにぎり、菓子パン、ペットボトル飲料のみ。分け合って食べると連帯感が生まれ、和気藹々と大阪歴史博物館に向かい

ました。

【02】グローバル人材の育成特集

■ グローバル人材の育成

大阪府国際化戦略実行委員会事務局 事務局長 志村 和哉

大阪府では、昨年3月、大阪の国際競争力を強化するため、「大阪府国際化戦略」を策定しました。この戦略に基づき、大阪府と公益財団法人大阪府国際交流財団は共同で「大阪府国際化戦略アクションプログラム」を策定するとともに、これを実施する組織として大阪府国際化戦略実行委員会を設置し、世界で活躍できる「グローバル人材の育成」に取り組んでいるところです。

ところで、「グローバル人材」とはどのような人材なのでしょう。グローバル人材の定義については、一様に決まったものではありませんが、経済や社会、文化などあらゆる面で世界がつながるグローバル時代において、世界の人々から尊敬と友好の気持ちを集めながら、持続的な豊かさ享受していくためには、単に優れた語学力を持つだけでなく、豊かな教養と幅広い視野を持ち、世界の人々との信頼関係を構築し、強いリーダーシップを発揮できる人物が求められるといえるでしょう。このようなグローバル人材が世界中で活躍し、日本をけん引していくことは、これからの日本の発展にとって避けては通れないことです。アクションプログラムでは、こうした「グローバル人材の育成」の重要性に着目し、大阪から世界で活躍するグローバル人材を育て、大阪ひいては日本の活力を高めることを目的として、今年度「おおさかグローバル塾」及び「グローバル体験プログラム」の両事業を展開しています。

「おおさかグローバル塾」では、若者の海外留学をサポートする目的で、4月から12月まで、留学に関する準備講座と短期留学を米英2コースで実施しています。将来、海外で学び、働きたいという強い希望を持つ高校生を約100名募集し、留学に必要な様々な知識を学んでいます。とりわけ約2週間の短期留学で実際に海外の大学や企業を訪問し、たくさんの人との交流を体験したことは、自分の進路を考える上で大きなヒントとなったようです。

(詳細はOFIXニュース第50号おおさかグローバルレターVOL.1をご覧ください。)

また、「グローバル体験プログラム」では、英語を使って日本にいながら海外のコミュニケーションを体験することのできるメニュー等を用意しています。海外に関心を持つきっかけづくりとして、高校の授業で活用されており、すでに計画を上回る約2,000名の参加申込が集まっています。

これらの事業に加え、実行委員会では今年度中に留学・海外研修助成の制度化も検討しているところです。今後とも多角的な事業の取組みにより、大阪から多くのグローバル人材を輩出していく予定です。

■ OFIXの国際理解教育外国人サポーター派遣事業

グローバル化の進展に伴って、日本に住む外国人が増えています。法務省の統計によると全国には200万人以上の外国人がいます。大阪に住む外国人は20万人に上ります。そして、大阪府の国際化戦略の実行によって、大阪に来る外国人はさらに増えるでしょう。それで、様々な国の文化と接することになります。外国人に日本の文化を理解してもらうだけではなく、日本人も多文化共生社会のために外国の文化を理解する必要があります。そのため、OFIXでは、公益財団法人大遊協国際交流・援助・研究協会と協力して、国際理解教育外国人サポーター派遣事業を行っています。

この事業は、小・中・高等学校や国際交流団体などから依頼を受けた時にOFIXに登録している外国人サポーターを派遣して、自分の母国の文化などについて発表してもらいます。外国人サポーターは大遊協国際交流・援助・研究協会の奨学生と大阪府に住む外国人で構成され、現在、20カ国、40人以上の外国人が登録されています。

24年4月から9月末までの派遣実績は21件で、その詳細は以下のとおりです。

| 団体・機関 | 依頼件数 | 派遣した外国人 | 対象者数 |
|-------|------|---------|------|
| 小学校 | 8 | 20 | 748 |
| 中学校 | 1 | 4 | 120 |
| 高等学校 | 9 | 9 | 782 |
| その他団体 | 3 | 4 | 90 |
| 合計 | 21 | 37 | 1740 |

外国人サポーター登録は随時にしていますので、興味のある方はOFIXまでご連絡ください。

OFIX国際理解教育外国人サポーター派遣事業担当
E-mail: info@ofix.or.jp

【03】JICAからのお知らせ

■ 国際協力ひろば ナマステ・インディア -インドで「つむぐ」国際協力-

今年は、日本とインドの国交樹立60周年。それを記念し、今回の国際協力ひろばのテーマは、今めざましい経済の発展ぶりで注目を浴びている暑い? 熱い!? インド。そんなインドは木綿の生産大国でもあり、その木綿を糸につむぐための糸車は独立運動のシンボルにもなりました。その糸車になぞらえ、インドで「つむぐ」国際協力のカタチをお届けします。映画・フェアトレードやファッションを通じて、開発途上国とあなたを「つむぐ」つながりを実感してみませんか。

日時：2012年11月3日（土曜日）・11日（日曜日）
13時30分から16時30分まで
会場：大阪国際交流センター（i-house）
主催：JICA関西・（公財）大阪国際交流センター
参加費：無料※事前申し込み必要
お問い合わせ先：
（公財）大阪国際交流センター 情報企画部
TEL. (06)6773-8182
FAX. (06)6773-8421

【11月3日】

- ・映画上映『スラムドッグミリオネア』
- ・講演「『スラムドッグミリオネア』にみるインド」
在大阪・神戸インド総領事館 ヴィカース・スワループ総領事

【11月11日】

- ・講演：「みんなでつながる、未来にやさしいお買い物」
-インドでつむぐピースバイピースコットンプロジェクト-
株式会社フェリシモPEACEBYPEACE
コットンプロジェクト 葛西龍也氏
- ・関西の学生団体によるフェアトレードファッションショー

【04】大阪府堺留学生会館オリオン寮生投稿コーナー

ラオスからの留学生でオリオン寮生のチャンピソンミド・パカムさんは、在籍するホスピタリティツーリズム専門学校の代表として、6月2日大分県で開催された「外国人による日本語弁論大会」に参加し、『日本人の若者の「やばい」言葉使い』というテーマでスピーチを行い、見事、文部科学大臣賞を受賞されました。その喜びを投稿してもらいました。

■ 日本人の若者の言葉使い

チャンピソンミド・パカム

ある言語の上達のために一番大切なことはその言語を好きになることだと私は思います。好きなことならどんなに難しくても自然に学び続けられるからです。日本の合気道や空手道に興味を持って2010年来日し、一年間日本語を勉強した後、現在の専門学校でホテルの勉強をしています。この学校に入学して初めて日本人の若者と一緒に授業を受けました。最初はドキドキしてみんなが何を話しているのかはあまり分からなかった。「話をする人」より「話を聞く人」になりました。その中で特に気になったのはみんながよく使う「やばい」という言葉です。この言葉はどんなときにも使えるようですが「いったいこの言葉の意味はなんだろう。」日本人の大人たちと交流する中でこの「やばい」は二つの意味があり、良いときにも悪いときにも使われていることが分かりました。その時偶然に学校での日本語の授業の中で毎年行われている日本語弁論大会に参加して「日本人の若者の“やばい”言葉使い」というスピーチが誕生しました。このスピーチにより日本語の面白さが分かってきただけでなく、私は日本語の美しさを守ると共に外国語に対する尊敬や外国語の勉強の面白さも分かり、さらに第53回外国人による日本語弁論大会で多くの人々に伝えることができとても嬉しかったです。

このような誇りの高い弁論大会に出場でき、文部科学大臣賞をいただいたのは本当に先生たちのおかげです。最初の応募のためのビデオレコードをしてくれた先生、スピーチの練習を聞いてくれた先生、寮の管理人さん、担任の先生や出会った日本人の大人たち、そして「やばい」を使っている若くてかわいい友達に感謝します。特に私たち留学生を担当する先生に深く感謝します。本番でも緊張するはずだったのですが、思ったほど緊張しなかったのはたぶん先生が私より緊張してくれたからかもしれませんね。この大会を通じて他の外国人の友達のスピーチは自分にとってもいい勉強になりましたし、スピーチが行われた別府市の魅力や人々の暖かい歓迎に感銘を受けてもっと日本のことが好きになりました。長く日本にいと日本と恋に落ちないといられないですね。これから大学へ進学する夢を実現していき、合気道の黒い帯を得られるまでに様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。一緒に、日本、頑張ろう！

【05】外国人情報コーナー

■ 高度人材ポイント制度

日本の経済成長や国際競争力を向上させるため、国内の人材を活用することとともに、海外からも優秀な人材を積極的に受け入れることの大切さが叫ばれています。平成24年5月7日から「高度人材ポイント制度」が導入されました。この制度は就労のために在留する外国人の方で、高度な資質・能力があると認められる人をより広く受け入れるため、「学歴」、「職歴」、「年収」などの項目ごとにポイントを設けて、一定点数に達すると優遇措置を受けられることができる制度です。在留資格は「特定活動」となり、複合的な在留活動が可能となります。在留期間は「5年」となり、一定の条件で親や家事使用人の帯同も許されています。この制度を利用する場合、現有の在留資格を高度人材としての在留資格へ変更することも可能ですし、高度人材として入国することも可能です。

大阪府外国人情報コーナー

対応時間：9時から5時30分（月から金）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、
スペイン語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語

■ 文化と国籍を超えて

皆さん、こんにちは。大阪府国際交流財団のアルビンです。やっと涼しくなりましたね。体の方は大丈夫でしょうか。風邪をひかないように十分気をつけてください。

私はOFIXの国際理解教育外国人サポーター派遣事業の担当をしていて、そのおかげで多くの外国人と接することができます。今と違って、小さい頃はあまり外国人と接することはありませんでした。日本語を勉強し始めてから私にとって外国人である日本人との接触が多くなって、さらに日本語を勉強する多くの外国人との接触のきっかけにもなりました。それは国際交流基金の研修に参加していた時でした。世界中から日本語を勉強している人たちが集まっています9か月も一緒に暮らしていました。その時気付いたことは研修生たちがそれぞれ西洋の人たちは西洋人同士で、アジアの人たちはアジア人同士でグループを作りました。別に西洋人とアジア人の仲が悪かったわけじゃなかったけど、文化が似た者同士だと付き合いやすいからでしょう。

2頁の国際理解教育外国人サポーター派遣事業の記事の中に書きましたが、大阪に住む外国人は多くて、そして、これからも増えるでしょうことから、一緒に暮らすのにお互いのことを理解する必要があります。しかし、理解するのは簡単な事ではありません。私は昔「日本語を勉強しているのは日本人を理解したいから」とある日本人に話しますと、「あなたは日本人を完全に理解することはできない」と言われました。当時はちょっと悔しかったのですが、その後、その人が言いたかったことが何となくわかりました。やっぱり理解できないものはたくさんありました。「なぜそんなことを？」と聞いても、戻ってきた答えは「日本人だから」しかありませんでした。それでは、言われたように本当に完全に理解できないことなのでしょうか。それは違うと思います。「理解」と言うのは「頭でわかる」ことだけではないと思います。「理解」という事の中には「わからなくても受け入れる」ことも含まれていると思います。

昔は「あなたは日本に長く住んでください。あなたにむいていないから。」と言われたことがあります。しかし今、私はよく日本人に間違われています。「日本人より日本人だ」と言われています。どのようにして変わったかと言うと、ただ日本人の全てを受け入れただけです。それで、日本人のことが分かるようになりまし。とはいっても、「説明して」と言われたら説明できないと思います。それは「日本人の特徴」としか言えません。

真の意味で理解ができるのに大切なのは相手を想う・相手を受け入れる心です。また、お互いにお互いのことを、喜んだり、悲しんだり、傷ついたりする、同じ人間であると認識すれば、文化や国籍という壁を乗り越えられるでしょう。そして、それは多文化共生社会につながるでしょう。

日本も元気にする青年海外協力隊

-世界を元気にした人は、日本も元気にできる！-

JICA関西 国際協力推進員 上野 貴子

昨今、企業の若手社員の育成のため青年海外協力隊へ参加し、開発途上国でのボランティア活動の経験により、ビジネスに不可欠な幅広い視野、高度なコミュニケーション能力、異文化適応能力などを身に付けさせ、帰国後に企業活動へ還元させることが期待されています。企業活動がグローバル化する中、それに対応するためのグローバルな視野や素養を備えた人材の確保も喫緊の課題となっています。

「開発途上国を元気にしたい」とJICAの青年海外協力隊に参加した人たち。海外でのボランティア活動を終えて帰国した彼らは、現在「日本の地域を元気にする人材」として、関西で活躍しています。今回は、彼らに昨今必要とされるグローバル人材についてインタビューしてきました！

【高林 健一さん 西日本電信通信株式会社 大阪支店 第一法人営業部】

(派遣国：スリランカ 職種：コンピューター技術)

現職参加制度を利用し、スリランカの職業訓練校に赴任しITコースを受け持つ。帰国後は、隊員経験を有効活用し、府下の都市開発案件を担当する。

1. 現職参加された経緯

学生時代に途上国をバックパッカーで旅をし、各国の脆弱なインフラ環境を目の当たりにし、自分が何か貢献できる仕事を志しました。世界に誇れるインフラ企業であるNTT西日本に入社後、同社の協力隊経験者の先輩が生き活きと自信をもって任国や活動の様子を語る姿に共感し応募しました。折しも、スリランカで公共整備指導の要請があり、職業訓練校であるゴール技術短大にITコースの講師として赴任しました。学生向けの情報通信技術の授業を受け持つとともに同僚に対する技術指導を行いました。

2. スリランカと日本の違い

日本の方がシステムティックな部分もありますが、人と人のつながりを大切にしている姿勢は同じだと思います。ただ、宗教観の違いがあり、生徒たちがお坊さんの足の甲に額をつけて挨拶する姿には驚きました。

3. ご苦労されたこと

現地の活動では求められているものと現状のギャップに戸惑いジレンマを抱えました。公用語であるシンハラ語も赴任当初苦労しましたが、仲間ができるにつれコミュニケーションに困らなくなりました。また、「わからないものはわからない！」と言える度胸もつきました(笑)

4. 協力隊の経験がどのように現在のお仕事に活かされていますか

現地では自分が頑張るというよりも、現地の人にやってもらわないといけないことがほとんどです。いかに粘り強く現地の人を巻き込み、成果を上げるかという事を会得したので、現在の仕事ではその姿勢が役立っています。

5. グローバル人材とは
相手を理解し思いやり、そして自分もグローバルな社会の一員として認められる人だと思えます。自分のキャラクターを持ちながら、人とのコミュニケーションのやり方を見つけることが大切です。
6. 海外での就労や青年海外協力隊への参加を希望される方へのメッセージ
海外は日本以上に競争社会ですので、臆せず発言し自分をアピールし、その緊張感の中で自分を高めていく必要があります。

【北田 薫さん 西日本電信電話株式会社 第一法人営業部】

(派遣国：カンボジア 職種：システムエンジニア)
高林健一さんを青年海外協力隊参加へ導いた先輩です！
現職参加制度を利用し、青年海外協力隊としてカンボジアの 計画省で統計データの Web公開に向けスーパーバイザー として赴任。カンボジアと日本をIPテレビ電話を使って遠隔授業活動を実施。帰国後は、教育ICT (information communication technology) 活用コーディネーターとして教育機関のシステムネットワーク構築業務を担当しています。

1. 現職参加された経緯
協力隊参加前も、教育ICTを社内で担当しており、当時はまだほとんど実現できなかった、インターネットを使用での海外と日本の教育現場をつなぐ交流授業を実現したいと思っていました。特にインフラが整っていないため途上国との交流授業は困難な時代でした。日本の子ども達と途上国との関わりの中で、一方的に寄付をする形ではなく、海外と日本の教育現場をインターネットでつなぎ、顔を見てリアルタイムに話をすることにより、相互に現状を知ることができ、お互いに必要な支援や子ども達の将来に繋がる交流が可能になります。それを実現するためには、私が途上国に暮らすことが必要であると思い、また国際協力の主旨にも合致すると思い協力隊に参加しました。
2. カンボジアと日本との違い
人のつながりが深いことでしょうか。あと、先生などの目上に対する強い尊敬心を持っています。
3. ご苦労されたこと
配置された省庁では、カウンターパートは、待遇が低くアルバイトをするため職場にほとんど来ない職員であったため、活動が困難でした。そんな環境を踏まえ、試行錯誤の後、活動の形を変え、Web制作手法の授業を複数の職員に実施する体制を作り、活動を再スタートしました。また、もうひとつの活動のインターネットライブ授業では、休日返上で学校の通信環境やカンボジアから授業に参加する学校の調査、日本の学校への公募用Webサイト作成など実施に向けた環境を整え、他の協力隊員の協力もあり派遣期間2年間で1000人を超える子ども達がインターネットライブ授業を体験する事が出来ました。
4. 協力隊の経験がどのように現在のお仕事に活かされていますか
日本の職場に復帰後も専門家としてカンボジアに再赴任し、カンボジア日本センターでICT活用による交流事業の技術移転の実施や、JICA集団研修のコースリーダーとして「デジタル・ディバイド解消のためのICT活用コーディネーター育成研修」の企画や講師を担当するなど、現職の傍ら国際協力事業にも携わっています。
5. グローバル人材とは
自分でアイデアをもってチャレンジ精神のある人です。ここ6年から7年で急激な日本社会の変化を感じています。経済の低迷などを様々な背景はありますが、団塊の世代の子ども達が十分にモノに恵まれた豊かな環境で育ってきたため、日本人の特に若者にハングリーさが足りないように思います。
6. 海外での就労や青年海外協力隊を目指す人にメッセージ
相手の国の人や社会をよく知る事が大事。そして、その国に必要な事の中から自分ができることに取り組みんでください。異なる文化で生活し、共に働く中で、問題解決の毎日を過ごすことがグローバル人材の育成につながります。

【インタビューを終えて】

「外国人という単語は、外国と日本を対比させる言葉に過ぎない。意識することはなくなった！」と笑う高林さんはまさにグローバルに国境を飛び越えた方でした。一方、「教育現場では自分がどんな人になりたいのかわかるような環境づくり、海外に出て行く壁を低くするモチベーションづくりが大切です。」と真摯なまなざしでカンボジアと日本の教育について語る北田さんの姿は、まさに現役の青年海外協力隊マインドそのもの。
グローバル化が進む社会で青年海外協力隊経験者の貴重な体験や、身に付いた国際感覚は重要なファクターとして企業・現場で不可欠な存在です。彼らの活動を通じて、JICAの青年海外協力隊事業をさらに理解していただければ幸いです。

★大阪府メールマガジン情報★ 『GEO (Global E-net Osaka) 』
大阪で開催されるイベント・大阪の名所・大阪に関する豆知識等を紹介するメールマガジンです！
⇒ <http://www.pref.osaka.jp/kokusai/geo/index.html>

★その他の募集・お知らせ★

※イベントカレンダー：国際交流に関するイベント情報を紹介しています。

